



2022年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期業績見通し

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第1四半期実績

- ✓ 売上高： 市場の回復により、医療分野が牽引し、連結で+40%と大幅な成長
FY2020比でもプラス成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準
- ✓ 営業利益： 売上回復を主要因に、第1四半期として額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ✓ 市場環境の回復を受けて、売上・利益ともに上方修正
- ✓ 売上高： 全社でパンデミック前を超える水準、医療分野は過去最高となる見込み
- ✓ 営業利益： 額は1,400億円、率は約17%となり、ともに過去最高を見込む
- ✓ 当期利益**：過去最高の1,010億円となる見通し

*四半期実績の開示を開始した2009年3月期から

**親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

01

**2022年3月期 第1四半期
連結業績および事業概況**

2022年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- 1** 売上高： 市場回復を受けて、医療分野が牽引し、連結で+40%の成長。FY2020（パンデミック前）と比較しても大幅な成長
- 2** 営業利益： Transform Olympusを始めとした施策を実行しながらも増収により、第1四半期では額・率ともに過去最高*

第1四半期実績（4-6月）

（単位：億円）	2021年3月期	2022年3月期	FY2021比	為替影響調整後 FY2021比	FY2020比	為替影響調整後 FY2020比
売上高	1,367	1 1,915	+40%	+32%	+11%	+9%
売上総利益 （売上総利益率）	853 (62.4%)	1,233 (64.4%)	+45%	+39%	+10%	+9%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	803 (58.8%)	958 (50.0%)	+19%	+14%	0%	▲2%
その他の収益および費用等	▲12	1	-	-	-	-
営業利益 （営業利益率）	37 (2.7%)	2 276 (14.4%)	+645%	+633%	+67%	+72%
税引前利益 （税引前利益率）	27 (2.0%)	270 (14.1%)	+900%			
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	▲27 (-)	187 (9.8%)	+214億円			
EPS	▲2円	15円				
円/USドル	108円	109円				
円/Euro	118円	132円				
円/CNY	15円	17円				

*四半期実績の開示を開始した2009年3月期から

各事業の構成：サブセグメント

FY2022より、事業の状況をより適切にご理解いただくため、サブセグメント毎の情報を追加

内視鏡事業

消化器内視鏡



消化器内視鏡システム

外科内視鏡



外科内視鏡システム

医療サービス



修理サービス

治療機器事業

消化器科 (処置具)



ERCP・超音波製品群



EMR・ESD製品群

泌尿器科



軟性膀胱鏡



切除用電極

呼吸器科



気管支鏡



ディスポーザブル吸引生検針

その他の 治療領域



エネルギーデバイス



耳鼻咽喉科製品

科学事業

ライフサイエンス



生物顕微鏡

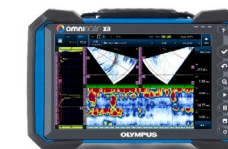
産業



工業用顕微鏡



工業用内視鏡

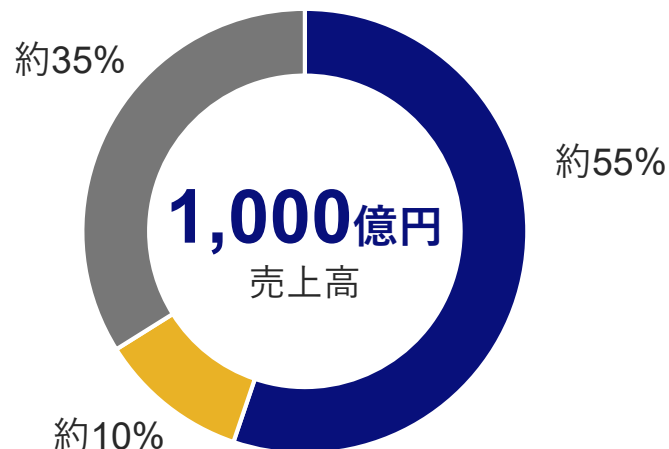
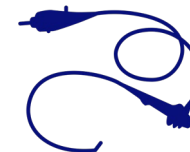


非破壊検査機器



蛍光X線分析計

2022年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



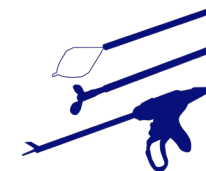
内視鏡事業全体

	FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q	
単位: 億円							
売上高	743	970	1,054	1,170	3,937	1,000	
営業利益	124	299	316	249	988	227	
その他の損益*	▲4	▲2	▲8	▲46	▲59	▲22	
営業利益率 (為替影響調整後)	16.7%	30.8%	30.0%	21.2%	25.1%	22.7% (23.7%)	

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/**FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

FY2022 vs FY2021 1Q成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器科内視鏡	47%	38%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、全ての地域でプラス成長。特に日本、欧州、北米の売上が増加。「EVIS X1」を含む消化器内視鏡システム、上部消化管用、下部消化管用スコープも売上の増加に寄与
■ 外科内視鏡	34%	28%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、大幅なプラス成長。外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」が好調に推移した日本と北米で売上が増加
■ 医療サービス	19%	11%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含むサービス契約の安定的な売上加え、前年同期に新型コロナウイルスの影響を大きく受けたため、全ての地域で修理件数が増加
合計	35%	27%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 9%成長

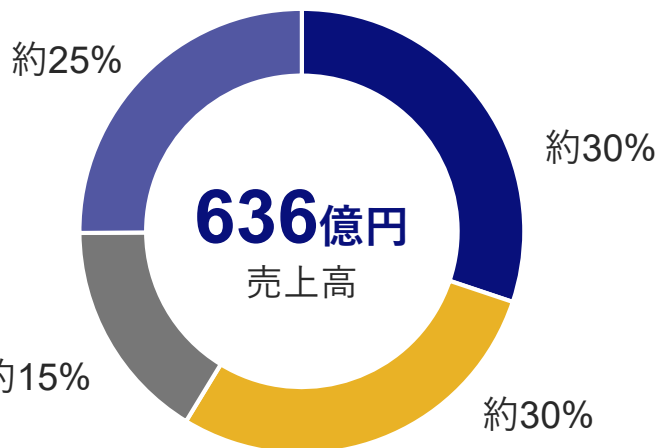
2022年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



治療機器事業全体

	FY2021					FY2022	
単位: 億円	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q	
売上高	430	587	623	679	2,318	636	
営業利益	37	63	132	74	306	141	
その他の損益*	▲3	▲1	▲3	▲22	▲30	25	
営業利益率 (為替影響調整後)	8.5%	10.7%	21.3%	10.9%	13.2%	22.1% (23.1%)	

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/**FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。



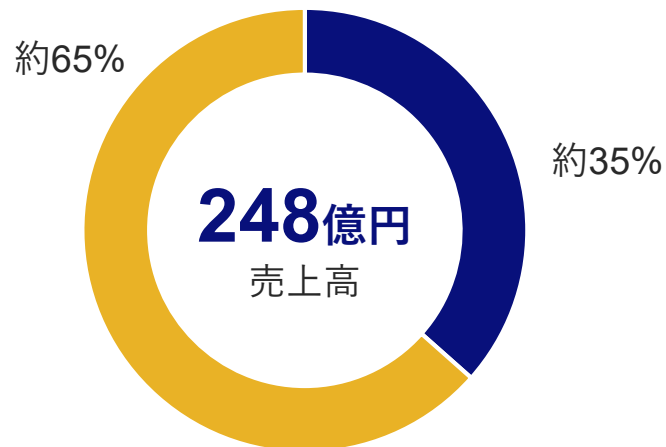
FY2022 vs FY2021 1Q成長率

円ベース

為替影響調整後

■ 消化器科 (処置具)	40%	32%	<ul style="list-style-type: none"> 症例数が回復傾向にあり、全ての地域・製品群でプラス成長。特にワクチン接種が進み、症例数が増加している北米で好調に推移。特にサンプリング（生検鉗子等）、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大
■ 泌尿器科	69%	60%	<ul style="list-style-type: none"> 症例数が回復傾向にある北米と欧州を中心に大幅なプラス成長。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功した北米が好調に推移
■ 呼吸器科	42%	33%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、Veran Medical Technologies社の売上、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡（超音波気管支鏡の新製品を含む）等が好調に推移した北米で大幅な成長
■ その他の治療領域	43%	34%	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーデバイス、耳鼻科、婦人科で好調に推移。「THUNDERBEAT」と耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与
合計	48%	40%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 8%成長

2022年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



科学事業全体

	FY2021					FY2022	
単位: 億円	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q-4Q	1Q	
売上高	178	226	266	289	959	248	
営業利益	▲16	18	27	20	49	19	
その他の損益*	▲3	3	0	▲13	▲12	▲2	
営業利益率 (為替影響調整後)	-	8.1%	10.3%	6.9%	5.2%	7.5% (8.1%)	

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2022 vs FY2021 1Q成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ ライフサイエンス	29%	22%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が進んだことにより、全ての地域でプラス成長。販売活動の制限緩和が進み、市場環境の回復が顕著な北米で、生物顕微鏡の拡販等が寄与
■ 産業	47%	39%	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な市況回復に伴い、設備投資状況に改善が見られ、全ての分野でプラス成長。特に中国で、5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから工業用顕微鏡が好調に推移。市場環境に回復傾向が見られる非破壊検査機器も売上増加に寄与。高値の金市場と好調な貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、蛍光X線分析計の売上も好調に推移
合計	40%	32%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 8%成長

財政状態計算書

- ☑ Medi-Tate社の買収等により、のれんと無形資産が増加
- ☑ 約7,200万株の自己株式の消却を実施

(単位：億円)	2021年3月末*	2021年6月末	増減額
流動資産	5,802	5,134	▲668
棚卸資産	1,590	1,641	+51
非流動資産	6,030	6,312	+282
有形固定資産	2,390	2,387	▲3
無形資産・その他	2,366	2,436	+69
のれん	1,274	1,489	+216
資産合計	11,831	11,446	▲385

	2021年3月末*	2021年6月末	増減額
流動負債	3,284	2,827	▲457
社債及び借入金	315	112	▲203
非流動負債	4,593	4,606	+13
社債及び借入金	3,237	3,239	+1
資本	3,955	4,014	+59
自己資本比率	33.3%	35.0%	+1.7pt
負債及び資本合計	11,831	11,446	▲385

*2021年3月期に発生したVeran Medical Technologies社、Quest Photonic Devices B.V.社の企業結合について、2022年3月期第一四半期連結累計期間において暫定的な金額の修正を行っています。これに伴い、2021年3月期の数値を遡及して修正しています。

有利子負債：3,351（2021年3月末比▲201）

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： Medi-Tate社の買収による約210億円の支出、社外転進支援制度の引当取り崩しに伴う約90億円の支出を考慮すると、FCFはプラスを確保
- ☑ 財務CF： 借入金の返済や配当金支払により、390億円のマイナス

第1四半期実績（4-6月）

（単位：億円）

	2021年3月期	2022年3月期	増減
税引前利益	27	270	+243
営業キャッシュフロー	84	237	+153
投資キャッシュフロー	▲123	▲335	▲212
フリーキャッシュフロー	▲39	▲98	▲59
財務キャッシュフロー	1,118	▲390	▲1,508
現金及び現金同等物期末残高	2,707	1,687	▲1,020

2022年3月期第1四半期（4-6月）の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩	88億円
投資CF：事業・子会社等の取得	213億円

02

2022年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

- 1** 売上高： 市場環境の回復を受けて上方修正し、パンデミック前のFY2020を超える水準
- 2** 営業利益： 額は1,400億円、率は約17%となり、ともに過去最高を見込む
- 3** 当期利益*： 過去最高の1,010億円となる見通し

(単位：億円)	2022年3月期 5月7日公表見通し	2022年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	FY2020比	2021年3月期 通期実績**	2020年3月期 通期実績**
売上高	8,060	1 8,300	+240	+3%	+2%	+14%	+10%	7,305	7,552
売上総利益 (売上総利益率)	5,290 (65.6%)	5,460 (65.8%)	+170	+3%	+2%	+19%	+13%	4,595 (62.9%)	4,828 (63.9%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,000 (49.6%)	4,010 (48.3%)	+10	0%	0%	+12%	+5%	3,570 (48.9%)	3,812 (50.5%)
その他の収益および費用等	▲30	▲50	-	-	-	-	-	▲205	▲94
営業利益 (営業利益率)	1,260 (15.6%)	2 1,400 (16.9%)	+140	+11%	+8%	+71%	+52%	820 (11.2%)	922 (12.2%)
税引前利益 (税引前利益率)	1,210 (15.0%)	1,350 (16.3%)						768 (10.5%)	866 (11.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	890 (11.0%)	3 1,010 (12.2%)						657 (9.0%)	606 (8.0%)
EPS	69円	79円						10円	39円

2022年3月期配当
年間配当14円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

**「売上高」から「税引前利益」まで、継続事業の金額を表示しています。なお、当期利益は「継続事業からの当期利益」を表示しています。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡・治療機器： 売上、営業利益ともに上方修正し、医療分野としてパンデミック前を上回る過去最高となる見込み
- 2** 科学： 市場環境の回復を受けて、売上・営業利益ともに上方修正
- 3** 全社消去： 販管費の抑制により、改善を見込む

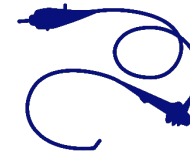
単位：億円		2022年3月期 5月7日公表見通し*	2022年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	2021年3月期 通期実績
内視鏡	売上高	4,190	1 4,380	+190	+5%	+3%	+11%	3,937
	営業利益	1,120	1,180	+60	+5%	+3%	+19%	988
治療機器	売上高	2,650	1 2,700	+50	+2%	+1%	+16%	2,318
	営業利益	480	520	+40	+8%	+6%	+70%	306
科学	売上高	1,080	2 1,090	+10	+1%	0%	+14%	959
	営業利益	110	130	+20	+18%	+14%	+163%	49
その他	売上高	140	130	▲10	▲7%	▲7%	+41%	92
	営業利益	▲40	▲40	0	0	0	▲33億円	▲7
全社・消去	営業利益	▲410	3 ▲390	+20	+20億円	+19億円	+126億円	▲516
連結合計	売上高	8,060	8,300	+240	+3%	+2%	+14%	7,305
	営業利益	1,260	1,400	+140	+11%	+7%	+71%	820

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。5月7日に公表した2022年3月期通期業績見通しにおいても同様の組替えを行っています。

03

真のグローバル・メドテックカンパニーに
向けて

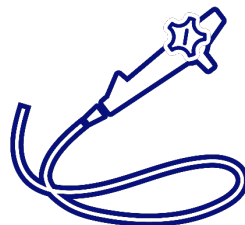
プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年8月5日時点)



経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ
拡充
リユース内視鏡を補完する製品ラインアッ
プの提供

Growth driver now

消化器内視鏡

- EVIS LUCERA ELITE (日本、中国)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本)
- VISERA ELITE II 2D (米国)
- VISERA ELITE (中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

Just launched / Coming soon

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本)
- 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国)
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)
- VISERA ELITE II 2D/3D機能 (中国)

Beyond

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EVIS X1 3D機能
- シングルユース十二指腸内視鏡

外科内視鏡

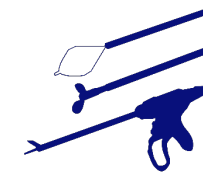
- VISERA ELITE II IR機能 (中国)
- 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%

内視鏡事業
年平均成長率*

*FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年8月5日時点)

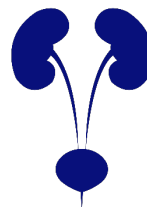


経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



呼吸器科

オリンパス製品とVeran Medical社製品でシナジーを創出するとともに、BLVR*市場も拡大することにより、肺がん領域のポートフォリオを拡大し、リーダーシップを強化

Growth driver now

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

呼吸器科***

- 超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

Just launched / Coming soon

消化器科

- 5製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 6製品 (日本)
- 3製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)

Beyond

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- シングルユース気管支鏡

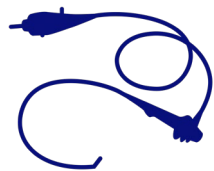
~8%

治療機器事業
年平均成長率**

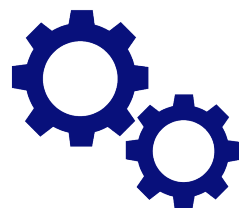
*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR ***FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています、

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化



医療ビジネスにおける
収益性の高い成長戦略の
深化



Transform Olympusによる
企業体質の更なる改善
および基盤強化



今後の成長を牽引する
製品開発への
着実な投資継続



サステナブルな社会に資する
ESGへの取り組み



科学事業の分社化の検討開始

Global Business Serviceの推進

Upcoming Investor Events

OLYMPUS

INVESTOR DAY 2021

日程: 2021年12月7日

登壇者: 竹内 康雄、ナチョ・アビア

Q&A: CEO・COO・CTO・
CFO・CAO



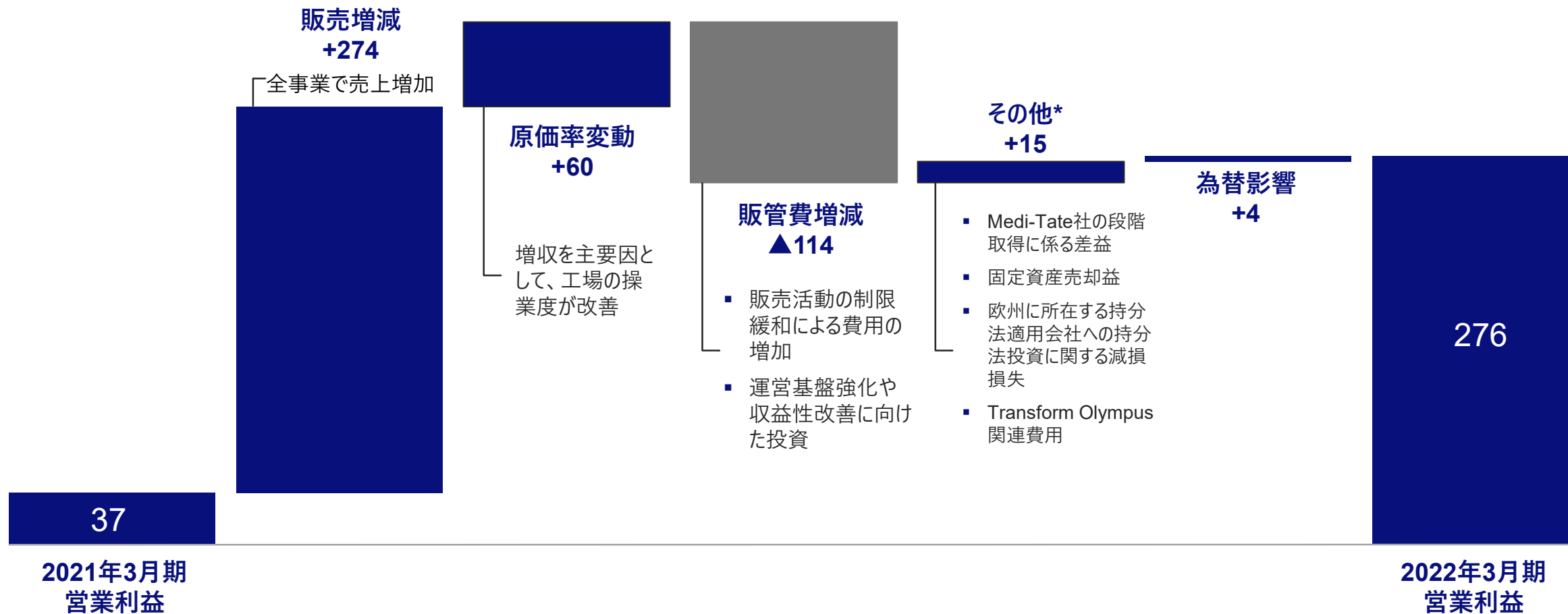
OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

2022年3月期 第1四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第1四半期実績（4-6月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2022年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

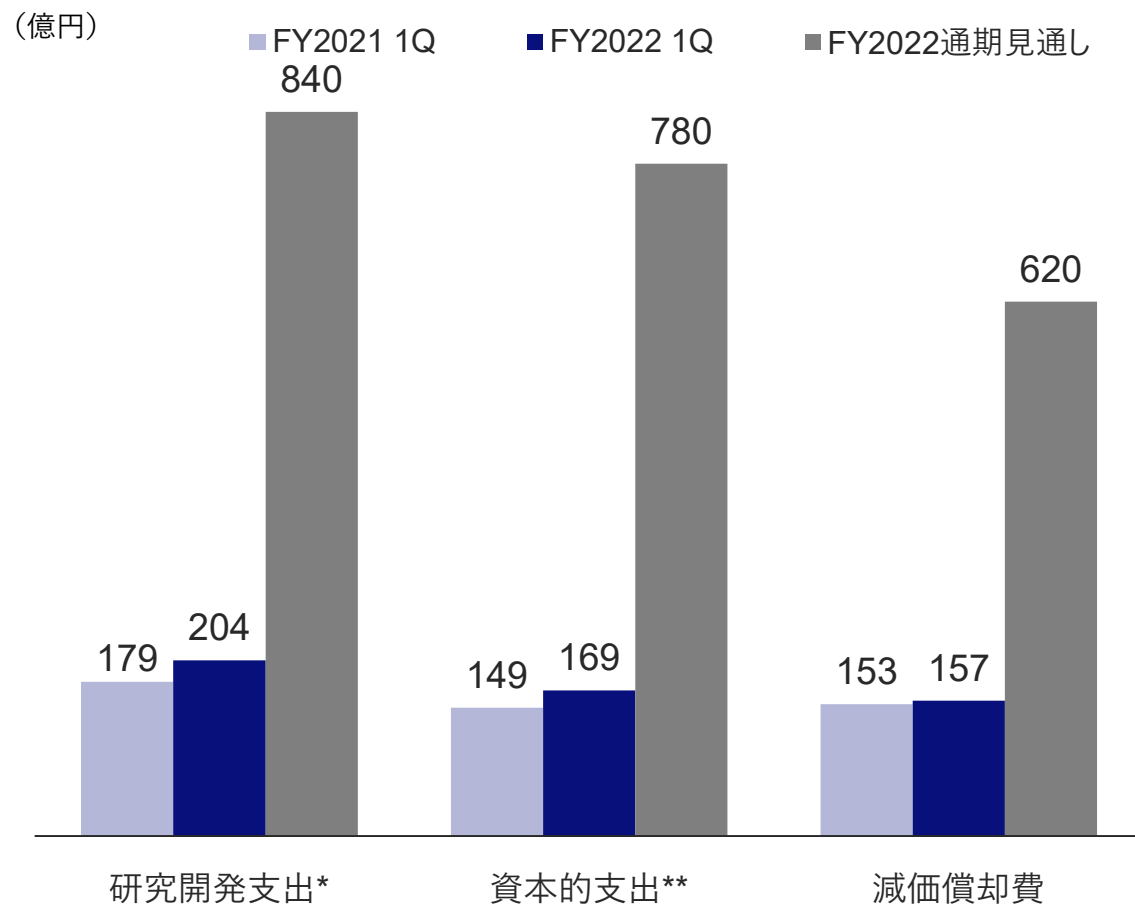
第1四半期実績（4-6月）

単位：億円		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	743	1,000	+35%	+27%
	営業利益	124	227	+82%	+80%
治療機器	売上高	430	636	+48%	+40%
	営業利益	37	141	+284%	+278%
科学	売上高	178	248	+40%	+32%
	営業利益	▲16	19	+35億円	+35億円
その他	売上高	16	30	+90%	+83%
	営業損益	▲5	▲6	0億円	0億円
全社・消去	営業損益	▲102	▲104	▲2億円	▲1億円
連結合計	売上高	1,367	1,915	+40%	+32%
	営業利益	37	276	+645%	+633%

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

投資等

第1四半期実績（4-6月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2021	FY2022
研究開発支出* (a)	179	204
開発費資産化 (b)	34	38
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	145	166

(単位：億円)	FY2021	FY2022
償却費	20	22
	2021年3月末	2021年6月末
開発資産残高	562	580

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
(FY2021 1Q：43億円、FY2022 1Q：38億円、FY2022通期見通し：100億円)